

宮 監 第 5 2 号
令和元年9月20日

宮崎市大字折生迫財産区財産管理者
宮崎市長 戸 敷 正 殿

宮崎市監査委員	梶 谷 欣 也
宮崎市監査委員	荒 木 敏
宮崎市監査委員	前 本 尚 登
宮崎市監査委員	谷 口 真理子

平成30年度宮崎市大字折生迫財産区特別会計
歳入歳出決算の審査意見について

地方自治法第233条第2項の規定により審査に付された平成30年度宮崎市大字折生迫
財産区特別会計歳入歳出決算について、次のとおり意見を提出します。

平成 30 年 度

宮崎市大字折生迫財産区特別会計
歳入歳出決算審査意見書

宮崎市監査委員

目 次

大字折生迫財産区特別会計歳入歳出決算審査意見

第1	審 査 の 対 象	1
第2	審 査 の 期 間	1
第3	審 査 の 方 法	1
第4	審 査 の 結 果	1
第5	審 査 意 見	1
第6	決 算 の 概 要	
1	特 別 会 計	
(1)	決 算 収 支 の 状 況	2
(2)	歳 入	2
(3)	歳 出	5
2	財 産 の 状 況	7

凡 例

- 1 文中及び表中の金額は、原則として円単位で算定し、千円未満を四捨五入して表示する。従って、金額の合計と内訳が一致しない場合がある。
- 2 表中の金額は、原則として百万円未満を四捨五入して表示する。
- 3 文中及び表中の比率は、原則として円単位で算定し、小数点第2位を四捨五入して小数点第1位まで表示する。従って、比率の合計と内訳が一致しない場合がある。
- 4 表中のポイントは、パーセンテージ間の単純差引数値である。
- 5 表中の符号の用法は、次のとおりである。
 - 「 0.0 」…………… 該当数値はあるが、単位未満のもの。
 - 「 - 」…………… 該当数値がないもの。
 - 「 」…………… 負数を示し、増減を示すときは減を表す。
 - 「 皆増 」…………… 前年度、該当数値がなく比率が出せないもの。

平成 30 年度 宮崎市大字折生迫財産区特別会計歳入歳出決算審査意見

第 1 審査の対象

平成 30 年度宮崎市大字折生迫財産区特別会計歳入歳出決算

第 2 審査の期間

令和元年 7 月 31 日から令和元年 9 月 20 日まで

第 3 審査の方法

平成 30 年度宮崎市大字折生迫財産区特別会計歳入歳出決算書及び決算書附属書類について、関係法令に準拠して作成されているかを確認し、それらの計数が正確であるかについて、各種帳簿、証書類及びその他の関係書類と照合した。

併せて、予算の執行状況及び決算の内容について、関係職員から説明を聴取するとともに、年度比較による分析を行うなどの方法により審査した。

第 4 審査の結果

平成 30 年度宮崎市大字折生迫財産区特別会計歳入歳出決算書及び決算書附属書類は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、かつその計数は正確であり、予算の執行及びこれに係る財務会計事務の処理はおおむね適正であると認めた。

第 5 審査意見

平成 30 年度は、平成 29 年度に引き続き、財産区有の土地や墓地の適切な維持管理及び財産管理台帳の整備に努めたほか、宮崎市と連携して平成 28 年度から取り組んでいる青島ビーチサイド活性化プロジェクトの事業予定者である青島プロジェクト株式会社と基本協定締結に向けた協議を行った。

平成 30 年度の決算額は、歳入総額が 1,701 万 6 千円、歳出総額が 1,390 万 2 千円で、前年度に比べ歳入が 618 万 3 千円 (26.7%)、歳出が 843 万 3 千円 (37.8%) とともに減少している。主な要因は、歳入において基金繰入金、歳出において基金積立金が、それぞれ減少したことによるものである。その結果、実質収支額は 311 万 4 千円となり、前年度に比べ 225 万円 (260.6%) 増加した。歳入の予算現額に対する収入率は 100.8%、調定額に対する収入率は 98.8% である。歳出の予算現額に対する執行率は 82.4% で、不用額 297 万 2 千円は前年度に比べ 263 万 5 千円 (782.5%) 増加している。今後の予算編成において歳入・歳出のより的確な把握・積算に努めるとともに、適正な執行を図られたい。

財産管理事務については、平成 29 年度の相続人調査において戸籍謄本の取得が完了したもののうち、地籍調査の実施地区を対象に 9 件の分収林契約地について現地確認を行ったが、契約者の高齢化や隣接地の所有者が不明などの理由で、7 件が筆界未定であった。今後とも、地籍調査の実施にあわせ、分収林契約地の調査を行い、財産の適正な管理、把握に努めるとともに、財産管理台帳の整備を図られたい。

宮崎市大字折生迫財産区基金については、基金繰入金の歳入構成比率は、平成29年度の61.6%から48.8%と12.8ポイント低下しているものの、依然として、財産区特別会計の財政運営上重要な役割を果たしている。

このような中、平成30年度末の残高は5,250万円となり、直近5年間で2,650万円(33.5%)減少している状況にある。

将来にわたって持続可能な財政運営を実現するためには、歳入の確保が重要であることから、平成31年4月に基本協定を締結した青島ビーチサイド活性化プロジェクトについて、早期に事業用定期借地権設定契約を締結のうえ、事業の着実な推進を図りたい。

第6 決算の概要

1 特別会計

(1) 決算収支の状況

決算収支の状況は、次のとおりである。

(単位：千円・%)

区 分	30年度	29年度	増 減	増減率
歳 入 総 額 (A)	17,016	23,199	△ 6,183	△ 26.7
歳 出 総 額 (B)	13,902	22,335	△ 8,433	△ 37.8
歳入歳出差引額 (C) (A) - (B)	3,114	863	2,250	260.6
翌年度へ繰り越すべき財源 (D)	0	0	0	—
実 質 収 支 額 (E) (C) - (D)	3,114	863	2,250	260.6

- ・歳入総額は1,701万6千円（前年度比618万3千円、26.7%減）、歳出総額は1,390万2千円（同比843万3千円、37.8%減）であり、歳入、歳出ともに前年度に比べ減少している。
- ・歳入歳出差引額（形式収支）及び実質収支額は、ともに311万4千円（同比225万円、260.6%増）となっている。

(2) 歳 入

歳入の状況は、次のとおりである。

(単位：千円・%)

年 度	予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収入率	
						対予算	対調定
30	16,874	17,222	17,016	0	206	100.8	98.8
29	22,672	23,199	23,199	0	0	102.3	100.0
増 減	△ 5,798	△ 5,977	△ 6,183	0	206	△ 1.5	△ 1.2
増減率	△ 25.6	△ 25.8	△ 26.7	—	皆増	—	—

- ・収入率は、予算現額に対して100.8%、調定額に対して98.8%である。

- ・収入済額 1,701 万 6 千円は、前年度に比べ 618 万 3 千円 (26.7%) 減少している。これは、使用料及び手数料が 30 万円、諸収入が 7 万 5 千円増加したものの、繰入金が 600 万円、財産収入が 35 万円、繰越金が 20 万 7 千円減少したことによるものである。
- ・収入未済額 20 万 6 千円は、前年度に比べ 20 万 6 千円 (皆増) 増加している。

〈 款別の状況 〉

(款別収入済額の前年度比較)

(単位：千円・%)

款	30年度	29年度	増減額	増減率	構成比率	
					30年度	29年度
5 使用料及び 手数料	305	5	300	5,639.1	1.8	0.0
10 財産収入	6,456	6,806	△ 350	△ 5.1	37.9	29.3
18 繰入金	8,300	14,300	△ 6,000	△ 42.0	48.8	61.6
20 繰越金	863	1,070	△ 207	△ 19.3	5.1	4.6
25 諸収入	1,092	1,017	75	7.3	6.4	4.4
計	17,016	23,199	△ 6,183	△ 26.7	100.0	100.0

第5款 使用料及び手数料

(単位：千円・%)

年 度	予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収入率	
						対予算	対調定
30	305	305	305	0	0	100.1	100.0
29	5	5	5	0	0	106.4	100.0
増 減	300	300	300	0	0	△ 6.3	0.0
増減率	6,000.0	5,639.1	5,639.1	—	—	—	—

- ・収入率は、予算現額に対して 100.1%、調定額に対して 100.0% である。
- ・収入済額 30 万 5 千円は、前年度に比べ 30 万円 (5,639.1%) 増加している。これは、墓地の新規貸付があったため、墓地使用料が 30 万円増加したことによるものである。

第10款 財産収入

(単位：千円・%)

年 度	予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収入率	
						対予算	対調定
30	6,605	6,662	6,456	0	206	97.7	96.9
29	6,796	6,806	6,806	0	0	100.1	100.0
増 減	△ 191	△ 144	△ 350	0	206	△ 2.4	△ 3.1
増減率	△ 2.8	△ 2.1	△ 5.1	—	皆増	—	—

- ・収入率は、予算現額に対して 97.7%、調定額に対して 96.9%である。
- ・収入済額 645 万 6 千円は、前年度に比べ 35 万円 (5.1%) 減少している。これは、折生迫広場の使用実績が減ったことにより、土地貸付収入が 35 万 1 千円減少したことによるものである。
- ・収入未済額 20 万 6 千円は、前年度に比べ 20 万 6 千円 (皆増) 増加している。これは、借受人の破産、死亡により、土地貸付収入が 20 万 6 千円未納となったことによるものである。

第 18 款 繰入金

(単位：千円・%)

年 度	予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収入率	
						対予算	対調定
30	8,300	8,300	8,300	0	0	100.0	100.0
29	14,300	14,300	14,300	0	0	100.0	100.0
増 減	△ 6,000	△ 6,000	△ 6,000	0	0	0.0	0.0
増減率	△ 42.0	△ 42.0	△ 42.0	—	—	—	—

- ・収入率は、予算現額と調定額に対して、いずれも 100.0%である。
- ・収入済額 830 万円は、前年度に比べ 600 万円 (42.0%) 減少している。

第 20 款 繰越金

(単位：千円・%)

年 度	予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収入率	
						対予算	対調定
30	863	863	863	0	0	100.1	100.0
29	1,070	1,070	1,070	0	0	100.0	100.0
増 減	△ 207	△ 207	△ 207	0	0	0.1	0.0
増減率	△ 19.3	△ 19.3	△ 19.3	—	—	—	—

- ・収入率は、予算現額に対して 100.1%、調定額に対して 100.0%である。
- ・収入済額 86 万 3 千円は、前年度に比べ 20 万 7 千円 (19.3%) 減少している。

第 25 款 諸収入

(単位：千円・%)

年 度	予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収入率	
						対予算	対調定
30	801	1,092	1,092	0	0	136.3	100.0
29	501	1,017	1,017	0	0	203.0	100.0
増 減	300	75	75	0	0	△ 66.7	0.0
増減率	59.9	7.3	7.3	—	—	—	—

- ・収入率は、予算現額に対して 136.3%、調定額に対して 100.0%である。
- ・収入済額 109 万 2 千円は、前年度に比べ 7 万 5 千円 (7.3%) 増加している。これは、宮崎県森林整備事業補助金が 7 万 5 千円増加したことによるものである。

(3) 歳 出

歳出の状況は、次のとおりである。

(単位：千円・%)

年 度	予 算 現 額	支 出 済 額	不 用 額	執 行 率
30	16,874	13,902	2,972	82.4
29	22,672	22,335	337	98.5
増 減	△ 5,798	△ 8,433	2,635	△ 16.1
増減率	△ 25.6	△ 37.8	782.5	—

- ・執行率は、予算現額に対して82.4%である。
- ・支出済額1,390万2千円は、前年度に比べ843万3千円(37.8%)減少している。これは、議会費が1万1千円増加したものの、諸支出金が750万6千円、総務費が93万8千円減少したことによるものである。
- ・不用額297万2千円は、前年度に比べ263万5千円(782.5%)増加している。

〈 款別の状況 〉

(款別支出済額の前年度比較)

(単位：千円・%)

款	30年度	29年度	増減額	増減率	構成比率	
					30年度	29年度
10 議 会 費	1,606	1,595	11	0.7	11.6	7.1
15 総 務 費	7,285	8,223	△ 938	△ 11.4	52.4	36.8
20 諸 支 出 金	5,012	12,518	△ 7,506	△ 60.0	36.1	56.0
25 予 備 費	0	0	0	—	0.0	0.0
計	13,902	22,335	△ 8,433	△ 37.8	100.0	100.0

第10款 議会費

(単位：千円・%)

年 度	予 算 現 額	支 出 済 額	不 用 額	執 行 率
30	1,655	1,606	49	97.0
29	1,652	1,595	57	96.5
増 減	3	11	△ 8	0.5
増減率	0.2	0.7	△ 14.2	—

- ・支出済額160万6千円は、前年度に比べ1万1千円(0.7%)増加している。これは、報酬が2万2千円減少したものの、交際費が3万円、旅費が3千円増加したことによるものである。
- ・不用額4万9千円は、各費目の執行残である。

第15款 総務費

(単位：千円・%)

年 度	予 算 現 額	支 出 済 額	不 用 額	執 行 率
30	9,768	7,285	2,483	74.6
29	8,360	8,223	137	98.4
増 減	1,408	△ 938	2,346	△ 23.8
増減率	16.8	△ 11.4	1,708.9	—

- ・支出済額728万5千円は、前年度に比べ93万8千円(11.4%)減少している。これは、選挙費が235万8千円増加したものの、財産管理費が253万9千円、墓地維持管理費が70万7千円、一般管理費が5万1千円減少したことによるものである。主な要因は、財産管理費において、財産区有林の造林事業の委託料が127万8千円減少したことによるものである。
- ・不用額248万3千円は、各費目の執行残である。

第20款 諸支出金

(単位：千円・%)

年 度	予 算 現 額	支 出 済 額	不 用 額	執 行 率
30	5,012	5,012	0	100.0
29	12,518	12,518	0	100.0
増 減	△ 7,506	△ 7,506	0	0.0
増減率	△ 60.0	△ 60.0	—	—

- ・支出済額501万2千円は、前年度に比べ750万6千円(60.0%)減少している。これは、基金への積立金が750万円、宮崎市への繰出金(負担すべき人件費相当分)が6千円減少したことによるものである。

第25款 予備費

(単位：千円・%)

年 度	予 算 現 額	支 出 済 額	不 用 額	執 行 率
30	439	0	439	0.0
29	142	0	142	0.0
増 減	297	0	297	0.0
増減率	209.2	—	209.2	—

- ・予算現額は43万9千円で、予備費の充用はなかった。

2 財産の状況

財産の状況は、次のとおりである。

区 分	単位	前年度末現在高	年度中増減高	決算年度末現在高
1 土 地 等	m ²	345,161.10	△ 152.00	345,009.10
墓 地	m ²	30,555.00	△ 152.00	30,403.00
青島公園墓地 953区画				
白坂墓地 81区画				
五庵園墓地 5区画				
山 林	m ²	16,110.91	0.00	16,110.91
※ 山林(立木の推定蓄積量)	m ³	2,833.33	27.10	2,860.43
原 野	m ²	252,681.15	0.00	252,681.15
※ 原野(立木の推定蓄積量)	m ³	8,271.98	79.11	8,351.09
溜 め 池	m ²	3,064.00	0.00	3,064.00
宅 地	m ²	22,156.05	0.00	22,156.05
地 上 権 設 定 地	m ²	6,276.00	0.00	6,276.00
そ の 他	m ²	14,317.99	0.00	14,317.99
2 出 資 に よ る 権 利	千円	883	0	883
宮崎中央森林組合出資金	千円	883	0	883
3 基 金	千円	60,800	△ 8,300	52,500
折生迫財産区基金	千円	60,800	△ 8,300	52,500

※土地等の合計には、山林及び原野の立木の推定蓄積量を含まない。

- ・土地等（山林及び原野の立木の推定蓄積量を除く）については、墓地が 152.00 m²減少している。これは、土地の売却によるものである。出資による権利については、決算年度中において増減はなかった。
- ・基金の残高は、5,250 万円で、前年度末残高から 830 万円減少している。

